

COVID-19ワクチン開発を巡る諸問題 —医薬品特許プールとの関連において—



元大阪大学大学院経済学研究科講師
西口 博之

目次

- I. はじめに
- II. コロナ感染者罹病状況
 - 1. 世界各国のコロナ罹病状況
 - 2. COVID-19ワクチン開発状況
- III. COVID-19ワクチン開発を巡る諸問題
 - 1. 先進国におけるワクチン獲得競争
 - 2. ワクチン生産体制実現後の問題
- IV. COVID-19開発競争と対応策
 - 1. 医薬品特許プール
 - 2. ワクチンの公平な配分
- V. おわりに

I. はじめに

世界の目下の危機といえば、新型コロナ（COVID-19）パンデミックであるが、今から十年前にも「エイズ危機」という異次元の危機があった。これは、必要とする医薬への平等なアクセスを阻害する医薬品の高価格、その主な原因は「行き過ぎた知的財産の保護」であり、その原因を除去するために2001年の「ドーハ宣言」があり、その一つが「医薬品プール」制度であった。

但し、前回のエイズ危機と今回のコロナ危機とでは、根本的な違いが罹病者の対象であり、前回は後進国中心であったが、今回は治療医薬品の供給側の先進国をも含むことで、その公平な配分が懸念される。

本稿では、そのCOVID-19危機におけるワクチンの開発並びにその配分を巡る諸問題を議論するものである。